

郷土資料館展示リニューアル事業について

開館以来 26 年経過する資料館では、近年、親子連れやご高齢の来館者(車椅子使用者)が増えてきていることから、収蔵資料の入替え活用と解説文を見やすく、読みやすくし、来館者の導線確保などの環境整備のため、平成 27・28 年度の 2 ヶ年をかけ常設展示室のリニューアル事業を実施。

(特定防衛施設周辺整備調整交付金事業)

◆27 年度事業～○事業費 432 万円

○工事期間 平成 27 年 12 月 1 日～31 日(1 ヶ月)。

<改修概要>

- ・第 2 部の「先住の人々」埋蔵文化財コーナーでは、土器・石器を身近で観覧できるようにガラス展示棚から耐震性を持たせた壁掛けスタイルに、上にあった解説パネルも目線の下に、発掘現場の様子を撮影した写真をデジタルフォトフレームにリニューアル。
- ・第 4 部の「大地をひらく」江戸時代から明治時代のコーナーでは、ステージ後方の解説パネルを差し替えができるパネルとして前面に、江戸時代の探検家 間宮林蔵の測量によって作成された「蝦夷図」を新たに加え、明治時代の農機具を入れ替えし、解説パネルを新設。

◆28 年度事業～○事業費 1,053 万円

○工事期間 平成 28 年 12 月 1 日～31 日(1 ヶ月)。

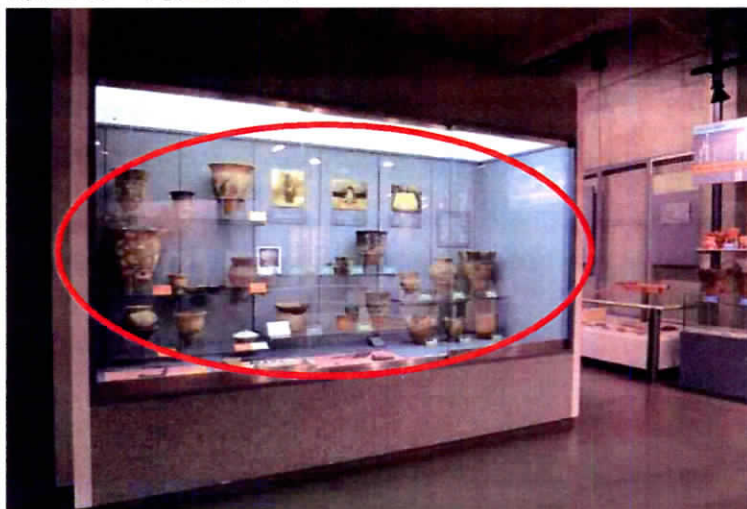
<改修概要>

- ・27 年度に続き、第 2 部の埋蔵文化財コーナーの土器展示棚の耐震化と収納ケースを前年同様に改修し、北海道古墳模型を改修。第 4 部明治時代コーナーのセンターにあった市内地図を航空写真・地図閲覧システムに入れ替え、ステージをセンターに移設して来館者の導線を広く確保。
- ・第 5 部、大正時代の「いろり」を一軒家風に見立てた展示替え、解説パネルの移設のほか、農機具や造材用具を入れ替え展示。また、テーマも「村から町、そして市へ」として一括して展示していたものを概ね大正から昭和の戦時中までとして「産業、鉄道、戦争とくらし」を中心に展示・解説。
- ・第 6 部「みんなの恵庭」コーナーを「昭和の暮らし」として昭和 20 年代から 40 年代の生活用具の移り変わりを写真、パネルを使い解説。さらに、「恵庭市の誕生」と「花・水・緑の生活都市えにわ」を紹介するコンセプト。

以上

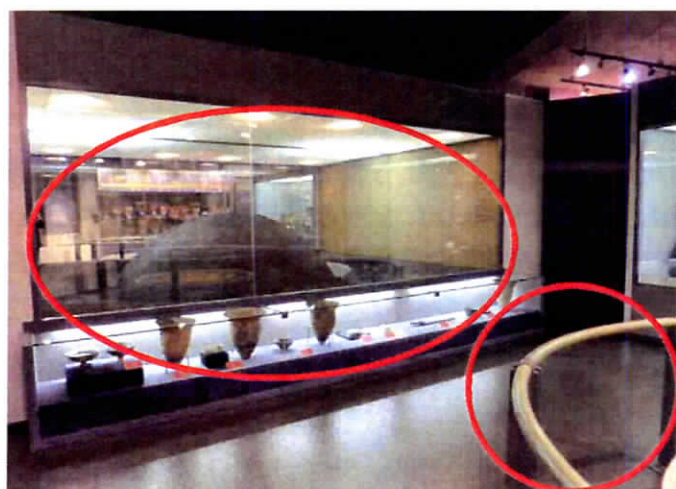
28年度の主な改修工事

第2部 先住の人々



工事前: 続縄文・擦文
土器ケース(ガラ
棚に置いている
状態)

工事後: 昨年に引き続き土器を金
属製の輪の中に入れ、耐震化を図
りました。また、前面ガラスを撤
去し、資料が見やすくしました。



工事前: ガラス越しの北海道式
古墳模型と手前の観覧
手すり

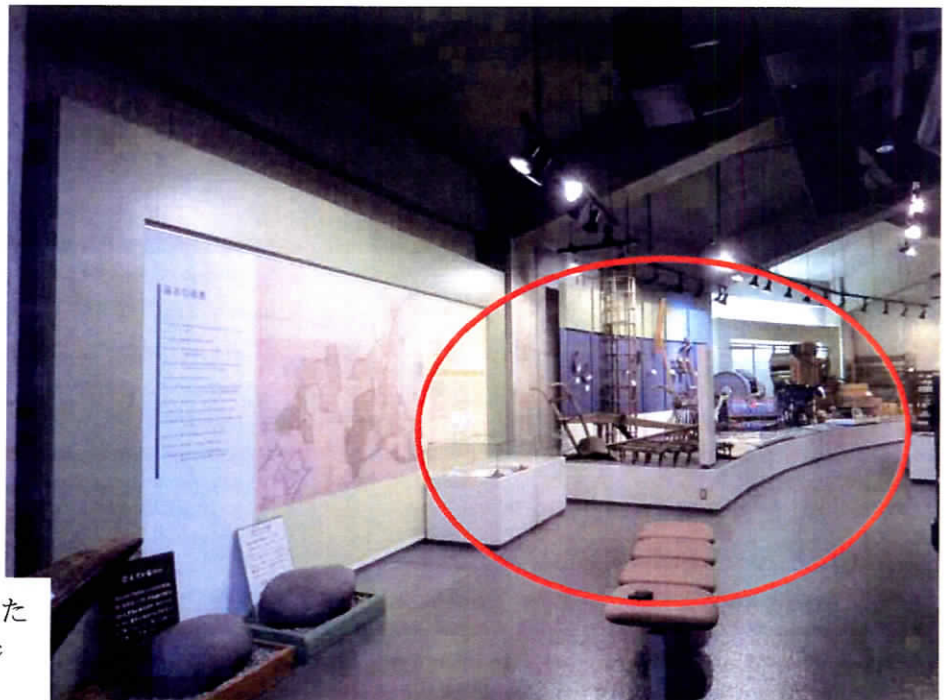
工事後：前面ガラスを撤去し、古墳模型本体及び手前のケース内の資料も見やすくしました。



工事後：中央の周堤墓模型の手すりを撤去し、導線を確保。右側の縄文土器コーナーは27年度耐震化を実施。

第4部 大地をひらく

工事前：左壁側にあった明治ステージ





工事後：ステージを産業資料ステージとして右側へ移設し、明治・大正・昭和という時系列から切り離し、左壁面には「明治政府・北海道の誕生、漁・島松村開拓」に関する解説パネル設置。スムーズに移動できる導線を確保。

第5部 恵庭村誕生



工事前：囲炉裏付近

工事後：左奥の明治期ステージを撤去し、土間スペースを確保して囲炉裏を二面から観られる工夫をし、明治ステージを移設したことにより狭かった大正・昭和期エリアの導線を確保。





工事前:大正・造材等用具ステージ



工事後：時代設定は大正から戦時中までとし、造材関連ステージを撤去して資料は産業ステージへ移動。また、ステージ左奥にあった大正期解説パネルを右側へ移設。

第6部 戦後の暮らし



工事前:細かな資料が多かった昭和ステージと奥の解説パネル。



館内左側から撮影



館内右側から撮影

工事後：時代設定は終戦後から昭和40年代としました。また、ステージ奥にあった解説パネルを手前に移設。特に、赤マル内にデジタルフォトを設置し、昭和の時代の動きを含めた80枚ほどの写真が連続してご覧になれます。

是非一度、来館され、恵庭の歴史に触れてみてください。